

## 問 事前合宿への取組は

答 交流人口拡大等の有効な手段の一つと認識



平山 仁 議員

同 ワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿を積極的に行うべきだが対応

は。

答 部長 ラグビーワールドカップ及び東京オリンピック・パラリンピックは、当市においても交流人口の拡大や観光振興に大いに資するものであり、事前合宿等の誘致は有効な手段の一つであるとして受け止めている。今後、事前合宿等の受

## 問 宿泊客獲得への対応は

同 交流人口の拡大や経

け入れに際し利用団体の要求に見合うよう体育関連施設の機能強化に努める一方、選手の滞在場所の確保等の課題解決に向け、関係部署での連携を密にし、多様な広報媒体を介し、あるいは旅行代理店への働きかけを強め、復興の現状を広く国内外に周知し、交流人口の拡大を図ってまいりたい。

経済活性化の視点から宿泊客を一人でも多く獲得する必要があるが対応は。

答 部長 当市としては、ワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックを国内外からいただいた温かいご支援に対する東日本大震災からの復興アピールと交流人口の拡大、大船渡市の魅力を発信できる大きな機会と捉え、今後、一般社団法人大船渡市観光物産協会等と連携を図りながら宿泊客の誘致に向けた取組を進めてまいりたい。



大船渡の交流人口拡大を



心配されるサル被害

## 問 サル被害への対策は

答 センサーを取り付け

行動を把握



船野 章 議員

同 当市では、内陸部へのアクセスの問題、交流人口の拡大に係る問題等とともに、鳥獣被害防止

問題の対策が急務である。

鳥獣被害は、農業者にとっては、正に生産意欲の減退に拍車をかける重要な問題となっており、早めの対策を打たねば、やがて鳥獣被害常習地帯になりかねない。

サルの出没は広範囲におよび、学童や幼児の教

育の場まで拡がりを示し、危険と隣り合わせの様相であり、人的被害も危惧される中で、市としての今後の対策を伺う。

答 部長 現在、五葉山周辺に、ニホンザルが確認され、群れで農地に出没している。

超音波を発生する機器を利用してサルの追い払いを試験的に実施しているが、周辺住民からサルの目撃情報が寄せられなくなり、一定の成果を上げていると考えている。

また、専門家に依頼し、

雌のサルにセンサーを取り付けて群れの行動を把握することとしており、出没箇所を特定することによって効果的な追い払いが期待されている。

耕作放棄地や空家等をすみかとして、小動物が行動する傾向にあることから、目撃情報が寄せられた地域には、すみかを作らせないための取組について、情報提供していきたい。



コミュニティづくりが期待される災害公営住宅

**問** 岩手県は、災害公営住宅の入居者間のコミュニティが構築されることにより、孤立や引きこも



滝田松男 議員

**答** 県の支援員と協働して活動

**問** 新たな生活の場でのコミュニティづくりは

**答** 部長 県に先駆けて

りなどを解消・防止し、入居して良かったと実感し暮らしていけること、様々な課題に対し入居者自らが話し合い解決していくことを目的とした災害公営住宅コミュニティ形成支援事業を実施している。当市のこれらの事業の実施状況を伺う。

昨年9月より大船渡市応急仮設住宅支援協議会のコミュニティサポーターによって同様の支援事業を行っていることから県の支援員と協働して活動している。各県営アパートでは説明会・入居者交流会が実施され、団地会も設立され始めている。

**問** 細浦地域コミュニティセンターの新設を

**答** 予算要望で、細浦地域共用のコミュニティセンター兼避難所施設の新

設の要望が提出され、市は地元との協議を踏まえて検討していくと回答しているが、現状について伺う。

**答** 部長 細浦地域の復興関連事業の進捗を勘案しつつ、そうした事業との連携による整備等効果的な整備手法をはじめ、建設場所や財源を踏まえた整備の可能性について、関係部署間で検討している。地域の皆様と協議を適時適切に実施したい。

**問** 地元の小規模企業JVへ直接発注を

**答** 今後は受注できる環境を整えたい



田中英二 議員

**問** 今後、公共工事を地元の小規模企業JVへも直接発注し地元企業も潤うようにすれば、そこで

働く人の収入も増え地元にお金が回り地元経済の活性化につながる。建物、電気、給排水、機械設備工事などの一括発注方式から分離発注方式に切り替えてはどうか。

**答** 市長 建物、電気、給排水工事など専門業種の分離発注は従来より

行っている。震災後は、復興事業の早期完了を目指し一括発注を主としていたが、今後は復興工事の進捗状況を注視しながら、分離発注を含めより多くの市内業者が受注できる環境を整えて参りたい。

**問** 大船渡湾の貝毒について

**答** 大船渡湾内の養殖ホタテ漁は貝毒の発生で出荷できず止める業者が出ている。水質の汚染も進んでいる。貝毒は温暖化

で、より発生しやすくなりホタテだけでなくカキも心配になっている。貝毒の発生を抑えるには海水をきれいにするしかないが、市の考えを伺う。

**答** 部長 北里大学などの研究によると、貝毒の原因となる毒を持ったプランクトンは他の海域に比べ依然として高レベルで存在し、安定的にホタテ漁をできる時期の見通しは立たない。プランクトンの数を低下させる手法の確立までは至っていない。



完成間近の越喜来小学校